

宮古島市未来創造センター(仮称)

基本構想

平成25年9月

宮古島市

目 次

第1章 宮古島の概況

- 1. 位置と地勢 1
- 2. 気候 1
- 3. 面積 1
- 4. 人口と産業 1

第2章 宮古島の図書館活動の現況

- 1. 入館者及び登録者数 2
- 2. 貸出冊数 2
- 3. 蔵書冊数 2
- 4. 児童サービス 3
- 5. 施設状況 3
- 6. 職員数 4

第3章 宮古島の公民館活動の現況

- 1. 中央公民館の活動の歴史 5
- 2. 公民館活動の実績と現況 5
- 3. 現在の施設と利用状況、課題 7

第4章 基本構想

- 1. 図書館と公民館併設館の設立目的 10
- 2. 宮古島の生涯学習施策における位置づけ 13
- 3. 併設館の基本理念 15
- 4. 新しい中央図書館・公民館の役割と他施設との連携・ネットワーク 15
- 5. 防災機能について 16
- 6. 施設外観及び周辺環境について 16

第5章 スペース構成

- 1. 図書館スペース 17
- 2. 公民館スペース 19
- 3. 共有スペース 20
- 4. トイレ 21
- 5. その他 21

第1章 宮古島の概況

1. 位置と地勢

本市は、北東から南西へ弓状に連なる琉球弧のほぼ中間にあり、沖縄本島（那覇）の南西約290km、石垣島の東北約133kmの距離にある。

島々は全体が概ね平坦で低い台地状を呈し、大きな河川もなく、生活用水等のほとんどを地下水に頼っている。

地層は、ほとんど隆起サンゴ礁を母岩とする琉球石灰岩からなり、砂岩と沈泥状の泥板岩が重なりあったブロックで形成されている。土壌は島尻マージの他、一部にジャーガル、沖積土壌が見られ、弱アルカリ性又は中性で粘土とロームを含み、石灰岩の破片が混入した石質粘土やその他数種の粘土が広範囲に分布している。

2. 気候

本市は、高温多湿な亜熱帯海洋性気候に属し、年平均気温は23.3℃、年平均湿度は79%、降水量の平均値は約2,019mmで、1年を通して寒暖の差が少ない穏やかな気候である。

3. 面積

本市の総面積は204.50km²で、大小6つの島々（宮古島、池間島、大神島、伊良部島、来間島）より構成されている。その中で宮古島が最も大きく、総面積の約78%を占め、宮古群島の中心をなしている。

4. 人口と産業

本市の総人口は、53,493人（平成17年国勢調査）で、県人口の3.9%を占めている。昭和60年からの15年間で約5,000人減少。また、宮古島市の就業人口割合は、第1次産業が23.7%、第2次産業が15.8%、第3次産業が59.8%で最も高くなっている。

県平均と比較すると、第1次産業の割合が高く、第3次産業が低い。

第2章 宮古島市の図書館活動の現況

本市の図書館は、旧平良市立図書館が昭和63年、旧城辺町立図書館が平成元年に開館。その後市町村合併に伴い、それぞれ宮古島市立平良図書館、城辺図書館となった。また平成22年には、閉館となった沖縄県立図書館宮古分館の資料の一部を引継ぎ、宮古島市立平良図書館北分館が開館し、合計3館と移動図書館2台により、図書館サービスを行っている。

活動状況は、貸出を中心に移動図書館車による巡回サービス及び自動サービス、読書普及活動としておはなし会や季節行事や夏休み・読書週間に応じた活動、郷土史講座等を行っている。

しかし、図書館サービスの中核となる平良図書館は、市町村合併によりサービス対象人口は増えたが、狭隘な施設で段差も多く、市民の多様な要求に応えられる幅広い資料提供及び、高齢者や障がい者などへのサービスは十分とは言えない。

1. 入館者及び登録者数

平成24年度の利用状況として、入館者数は平良館 49,435 人、城辺館 15,991 人、北分館 8,044 人、合計 73,470 人となっている。登録者数は全体で 19,550 人で、人口対比率 36%となる。県内市町村立図書館の平均は 49%である。

2. 貸出冊数

平成24年度の貸出冊数は平良館 130,351 冊（移動図書館含）、北分館 2,257 冊、城辺館 35,823 冊（移動図書館含）、合計 168,432 冊で、前年度と比べ約8%増加している。人口一人当たり貸出冊数は3冊で、県内平均は4冊である。

3. 蔵書冊数

蔵書冊数は、平良館およそ6万6千冊、城辺館4万1千冊、北分館5万6千冊、合計16万3千冊で、市民一人あたり蔵書冊数は3冊。また県内図書館の一人あたり蔵書冊数は4冊である。

4. 児童サービス

児童サービスでは、平良館が「おはなしたまてばこ」、城辺館が「おはなし会」などボランティアによる読み聞かせを行っている。また、クリスマス会など季節に合わせたイベントや、夏休みにはサマースクールを開催し、読書感想文・画の指導を行っている。平成24年度の読み聞かせには、平良館で約1100人、城辺館で約500人が参加している。

5. 施設状況

●平良図書館（昭和47年建築）

所在地 宮古島市平良字西里187番地 宮古島市役所第2庁舎1階

延床面積 485 m²（一般室 180 m²、児童室 200 m²、その他 105 m²）

旧平良図書館（昭和36年建築）の老朽化に伴い、平成22年仮移転。

●平良図書館北分館（昭和61年建築 現在郷土資料専門館）

所在地 宮古島市平良字東仲宗根42番地

延床面積 639 m²（閲覧室 187 m²、書庫 241 m²、その他会議室、和室、事務室等）

平成22年県立図書館宮古分館閉館後、資料を引継ぎ北分館として開館。

建物は新館開館まで県より無償貸与。

●城辺図書館（昭和63年建築）

所在地 宮古島市城辺字福里377番地1

延床面積 440.85 m²（閲覧室 154.6 m²、展示・新聞・雑誌コーナー、視聴覚室、資料室、映写室等）

6. 職員数

	職員総数(人)		
		職員数(司書)	臨時
宮古島市立平良図書館	11	7(1)	4
北分館	4	2(1)	2
城辺図書館	5	2(1)	3
石垣市立図書館	14	5(1)	9
豊見城市立中央図書館	25	2	23
糸満市立中央図書館	19	8(3)	11
名護市立中央図書館	20	8(2)	12

※石垣市、豊見城市、糸満市、名護市の職員数は、
【日本の図書館 2012】(社) 日本図書館協会
発行による。

第3章 宮古島市の公民館活動の現況

1. 中央公民館の活動の歴史

宮古島市の中央公民館は、昭和60年、旧平良市において市民の実際生活に即する教育、学術及び文化に関する各種事業（学級・講座、研修会、講習会、展示会、レクレーション等）を開催し、市民の教養向上、健康増進、情操の純化、生活文化の振興、社会福祉の増進に寄与する目的で開設された。

昭和60年、61年の「平良の教育」によると、生け花、茶道、着付け、三線講座など伝統文化をはじめ、料理講座、ギターや家庭電気講座など多様な講座を開設している。また、成人学級や婦人学級、健康で社会的知識を深め豊かな人生を送ることを趣旨とした高齢者学級、青年の相互協力と信頼関係を基盤とした社会づくりに寄与する青年学級や少年の協調性と責任感を培う少年教室など各年齢層を対象とした教室を開設している。視聴覚室において視聴覚機器を利用して学習することにより、放送番組のより効果的な方法を探求することを趣旨とした「放送利用学級」が開設されていたことは、時代に応じた多様な学習機会を提供するなど、中央公民館が建設当初から、市民の学習や文化活動の生涯学習拠点施設として大きな役割を担い、果たしてきたことを示している。

昭和61年建設当時の利用状況は、大ホール利用回数224回、利用者51,159人。研修室208回、6,213人。講座室135回、2,024人。視聴覚室108回、3,533人。和室73回、1,288人、調理室39回、438人である。

全体利用者数は多い時で6万9千人を超えており、人口3万数千人の旧平良市で市民ひとりが1年間に2回は利用した事になる。

2. 公民館活動の実績と現況

本市には中央公民館、城辺公民館、下地公民館、上野公民館、伊良部公民館がある。西原、久松、下崎地区には地区公民館があり、また多数の自治会に自治公民館が設置されている。中央公民館は、各公民館の統括館として中心的な役割を担っている。

各公民館とも対象地域の住民の生涯学習拠点施設として、独自な特徴ある講座、学級等の諸事業を実施し、また各公民館と連携を図りながら、市民の学習機会の提供に努めている。

中央公民館の平成21年度から3年間の実績は下記のとおりである。

23年度実績

講座名	回数	受講者 (延人)
花づくり	8	155
革工芸	5	67
パソコン(エクセル初級)	10	177
パソコン(ワード中級)	10	115
健康講座(ストレッチ)	10	268
写真 De 俳句	5	60
初めての三線	10	204
夏休み親子陶芸	2	56
日本舞踊	10	97
初めてのクラシックギター	10	79
布で作るかわいい小物	5	52
筆文字遊び	5	80
メンクイ男のそば道場	2	20
クバで作る癒やしの灯り	1	20
ホームクッキング	3	44
絵手紙年賀状作り	3	46
子どものためのお茶と和菓子作り	3	45
あったかマフラー編み物	3	44
遺言書の書き方	1	23
カラッと天ぷら揚げ方	1	22

施設名	利用日数	利用者数 (人)
大ホール	179	27,829
和室	183	3,190
料理講習室	23	474
研修室	242	12,172
講座室	132	2,583
視聴覚室	89	4,999
創作室	178	1,981
図書室	18	397
その他	24	1,755
合計	1,068	55,380

※サークル数は 24団体(琴、ダンス、舞踊、合唱、ジュニアオーケストラなど)

3. 現在の施設と利用状況、課題

(1) 現施設と課題

現在の中央公民館の施設は下記のとおりである。研修室は間仕切りで2部屋に分けて使用できるが、1室としての利用が多い。講座室も1室であり他市町村の公民館と比較しても部屋数が少なく全体的に手狭である。また部屋数が少ないため複数のサークルや団体、市民が利用したい時に利用したい部屋の競合があり利便性に欠ける。市民の利便性の向上を図り、またサークル活動の拡充を図り、多様なサークル活動の支援を考えると「いつでも、誰でも」容易に利用できるように、多様な部屋を数室ずつ備えた施設が望ましい。

現在の施設概要

構 造：鉄筋コンクリート（一部鉄骨入り）

敷地面積：17,135 m²

延床面積：2,520 m²

建築年月日：昭和60年6月

主な施設

	施設名(室名)	面積(m ²)	定数(人)
一階	大ホール	712	800
	和室	85	50
	創作室	48	30
	調理実習室	66	25
	図書室	108	
	サークル室(倉庫)	28	
	事務所	72	
二階	研修室(間仕切り)	180	130
	講座室	64	30
	視聴覚室	112	70
	資料室(倉庫)	24	

※駐車場 約 75 台

(2) 施設（部屋）の利用状況

研修室の利用率が最も高く、次に和室、ホールとなっている。部屋別のサークル利用をみると研修室は空手から合唱まで多様なサークルに利用されている。和室は座ったり横になったりするサークル活動に利用されている。ホールは講演会や文化祭など各フェスティバルなど集会で主に利用されるが、ダンスサークルの練習場として利用されている。創作室は手話や大正琴で利用されており、本来の部屋の目的に応じた利用よりも、人数に応じて部屋を利用していると思われる。

23年度 部屋の利用率

※年間 開館日 285日

部屋名	ホール	研修室	講座室	和室	創作室
利用日数(日)	179	242	132	183	178
率(%)	62.8	84.9	46.3	64.2	62.5
部屋名	料理講習室	視聴覚室	図書室	その他	
利用日数(日)	23	89	18	24	
率(%)	8.1	31.2	6.3	8.4	

23年度サークル別の利用部屋(サークル人数)

ホール	研修室	講座室	和室	創作室
フラダンス(26)	沖縄空手 A(15)	コーラス A(16)	ヨガ A(14)	手話 A(20)
フォークダンス(50)	体操(12)	大正琴 C(11)	ヨガ B(12)	手話 B(11)
	ギターA(11)	劇団	三線 A(23)	大正琴 A(12)
	コーラス B(64)		舞踊 A(10)	大正琴 B(10)
	合唱 A(37)		ボランティア A(31)	
	合唱 B(70)		三線 B(7)	
	ボランティア B		ヨガC	
	ジュニア オーケストラ			

(3) 曜日別時間帯べつ利用状況

曜日別、時間帯別の利用状況を見ると、午後 7 時以降の利用が多い。

平成23年度 曜日別・時間帯別利用状況						
	火	水	木	金	土	日
9-12	2	1		1		1
13-17		1	1		2	2
17-20		2		2	2	
20-22	4	3	1	3	2	

第4章 基本構想

1. 図書館と公民館併設館（宮古島市未来創造センター（仮称））の設立目的

（1）新しい島づくりのための拠点施設の整備

宮古島市は、平成17年10月、旧5市町村（平良市、城辺町、下地町、伊良部町、上野村）の合併により誕生した。新市建設計画の「新しい島づくり」では、合併後の宮古島市の将来像を「こころつなぐ、結いの島 宮古（みゃーく）～みんなでつくる 元気で誇れる島づくり～」の建設を目指している。

これまで宮古島市は、新市の基本理念に添った宮古島市総合計画に基づき、多くの計画や施策を策定し、まちづくりを進めてきたところである。

そうした施策の中心に「バイオマスタウン構想」（平成19年）、「エコアイランド宮古島宣言」（平成20年）、「宮古島市環境モデル都市行動計画」（平成21年）、等の施策があり、太陽光や風力発電を始めとした再生可能エネルギーの普及や資源のリサイクルに取り組むなど、離島というハンディを将来に向けて克服すべく諸施策を展開する必要がある。

宮古島市が、これらの取り組みをさらに進めるためには、市民が積極的にまちづくりに参画し、島の発展に寄与するための拠点を早期に整備する必要がある。そのためには、市民の交流と連携を支援する施設、市民の文化学習活動を支援する施設、地域を支える人づくりと安心・安全なまちづくりを支援するための施設、島外に向けて情報を発信し、観光客誘致へと繋げていく施設など交流と学習、情報発信をしていく拠点施設を整備し、地域づくりを支援していく必要がある。同施設には太陽光発電を始めとした各種エコ関連施設や備品を整備し、利用者のエコ学習に資する。また、2011年3月の東日本大震災後、平坦な宮古島市では防災に対する関心が高くなっており、拠点施設には、市民の防災意識を高めるための防災学習施設や災害時の避難施設としての機能を兼ね備えた施設とするなど、市民や観光客にも安心・安全な施設となるよう整備する。

このように、宮古島市は「エコアイランド」「環境モデル都市」構想等を一つの核として、今後島の将来の振興発展に資する図書館と公民館機能を併せ持った拠点施設を整備するとともに防災施設の機能を有した宮古島市未来創造センター（仮称）を建設する。

(2) 拠点施設としての図書館の新たな役割

図書館は、住民の知る権利を資料・情報提供面から保障する社会教育機関である。したがって、住民の要求に応じていつでも、どこでも、誰でも利用できるようにしなければならない。

本市の図書館サービスは、現在、平良図書館、北分館及び城辺図書館と自動車図書館による巡回サービスによって行われているが、伊良部地区、下地地区、上野地区は図書館機能をもつ拠点が未整備状況にあり、市全域をカバーする図書館サービスシステムづくりが課題となっている。

図書館は、すべての市民の生涯学習と情報・文化センターとしての役割がある。特に、乳幼児・児童・青少年、高齢者や障がい者の必要に応じた資料、施設、設備・機材の整備は重要である。また、市民の自主的・自発的活動を援助するため資料や学習活動の場の提供を図るとともに、時代の進展・変化に対応して地域文化・産業・ビジネス情報等を積極的に提供し、地域課題や調査研究を支援していく必要性が高まっている。

また、学校図書館は、学校の教育活動を支える重要な役割を果たしているが、児童生徒が必要としている資料は多種多様で、学校図書館で単独に所蔵する資料だけでは不十分な状況にあり、学校図書館を資料面で支援していく必要がある。

本市の図書館整備については、「新しい島づくり計画」のリーディングプロジェクトの主要施策として前期計画の重点事業に位置づけられている。本市の図書館整備は県内11市のなかでは後発となるが、新しい図書館は住民の生活をより豊かにする教育・文化施設として、また、市民生活に役立ち地域を支える情報センターとしての役割を担う。

(3) 拠点施設としての公民館の新たな役割

現在の中央公民館は、昭和60年、旧平良市時代に建設された。以来、延べ1,379,091人の市民が利用しており、市民の教養向上、健康増進、生活文化の振興など生涯学習拠点として、また地域の活動拠点として大きな役割を果たしてきた。

この間、宮古島市を取り巻く環境は、通信施設・設備の進展、民放テレビの同時放送、携帯やインターネットの普及等、大きく変化している。また、トリスアスロンに代表される各スポーツイベントやロックフェスティバルなど音楽イベントも多く開催され、宮古島の知名度は高まり、観光客や島外・県外からの移住者も増えている。一方で、少子高齢化の進行や地域コミュニティの希薄化、経済のグローバル化への対応など解決すべき課題も多い。

このように宮古島市は、社会、経済が大きく変化する中で、時代にマッチした対応や適切な市民へのサービス提供が要求されており、その中心となる公共施設の建設が急務である。今回整備する「宮古島市未来創造センター（仮称）」は、島づくりの理念である「エコアイランド」を具現化する建物として、また時代や環境の変化に応じた新しい機能を備えた中央公民館として、市民の生涯学習や高度化した学習ニーズ、社会・経済の変化、地域社会や家庭環境の変化に対応する新しい役割を担う。

(4) 併設館建設の目的

新しい中央図書館は、「中央図書館基本計画」で「市民に開かれた情報センター」と位置づけており、趣味、仕事、研究、産業、歴史・文化など市民が必要とする資料を提供すること、資料・情報を通して地域活力の源として人づくり・まちづくりを支えることを「基本方針」としている。

また、新しい中央公民館は、島づくりの拠点施設として多様な学習機会を提供する、高度な機能と役割を持った生涯学習の中核拠点である。

「宮古島市未来創造センター（仮称）」は、図書館と公民館のもつ機能が相乗的な効果を発揮する併設館として、本市に在住する子どもから高齢者等、すべての市民や観光客等が気軽に集い、利便性が高く使いやすい、人間力・地域力の向上や暮らしに役立つ、生涯学習拠点施設の建設を目的とする。

2. 宮古島の生涯学習施策における位置づけ

宮古島市第一次総合計画における、宮古島の島づくりと生涯学習に関する課題と施策は下記の通りである。

(1) 宮古島市総合計画における基本的課題

① 「3. 宮古の未来を担う人づくりの推進」

- ア. 学校・幼児教育の充実と個性に富んだ子どもたちの健全育成に向けた環境作りや次世代のリーダーの育成
- イ. 宮古島の事を知り、地域への誇りと愛着の心を育むことができるよう誰もが気軽に学ぶことができる機会の創出

② 「4. 定住魅力の強化」

- ア. 産業振興はじめ、総合的な暮らしの快適性・利便性の向上を図ることにより、若者に仕事のある活力あるまちづくり
- イ. ファミリー層を中心とする若い世代が安心して子育てができる環境づくりが求められる。

(2) 宮古島の施策体系と施策の推進

① 「個性豊かな文化をはぐくみ一人ひとりが輝く島」

- ア. 家庭・学校・地域社会の連携で進める青少年健全育成の推進
 - ・ 社会体験や自然体験等の社会参加型活動を推進
 - ・ 青少年団体、婦人団体、PTA等、指導者の資質向上と活動促進
 - ・ 家庭、学校、地域、行政等の情報共有や連携
 - ・ 地域の人材を活用し、勉強やスポーツ・文化活動など放課後子ども教室の充実
 - ・ 青少年を取り巻く諸課題の解決
 - ・ 地域と学校が連携協力、地域人材を活用した教育支援
- イ. みんなで学ぶ生涯学習・生涯スポーツの充実
 - ・ 学習機会の拡充と各種講座などの学習情報の周知
 - ・ 生涯学習の普及、啓発のための生涯学習フェスティバルの開催、学習成果発表の場の提供
 - ・ 地域人材の発掘、生涯学習リーダーバンクの内容充実

- ・市民の多様な学習ニーズに応えるため、情報通信技術やネットワークを活用した図書館サービスの充実
- ・生涯学習の中核施設である新たな図書館施設と中央公民館の建設
- ウ. 芸術文化の振興と文化財の保護、活用の推進
 - ・芸術文化や伝統文化を観賞できる機会の提供。
 - ・児童生徒が生徒の芸術を体験・観賞する機会の創出。
 - ・伝統芸能や伝統工芸を支える技能・技術の保存に向け、伝承者の育成の支援。

② 「笑顔とふれあいで、ともに支えあう健康福祉の島」

- ア. 子どもを産み、育てやすい環境づくり
 - ・家庭、地域一体となった子育て環境を整える
 - ・子どもと保護者の健康づくり
 - ・子育て相談窓口の充実
 - ・一人親家庭の自立促進
 - ・一時保育など保育サービスの充実と市民ニーズに応じた新たなサービスの提供
 - ・児童館など安心して活動できる場の確保
- イ. 高齢者が生きがいを持って暮らせる環境づくり
 - ・異世代交流による生きがいづくりの推進。
 - ・高齢者が積極的に社会参加できる環境づくり
 - ・高齢者の学習機会の拡充
- ウ. 障がい者が自立して暮らせる環境づくり
 - ・ボランティア養成研修会やボランティア活動推進
 - ・障がい者の社会参加の促進。
 - ・福祉講座や講演会などを開催し、障がいに対する理解と認識を深める取組み。

地域の活動拠点である中央公民館と生涯学習の中核施設である中央図書館の併設館は、基本的課題の解決に向けた施策体系に基づく施策を推進する拠点として、子育て世代の支援、子どもや青少年の居場所づくり、高齢者や障がい者などすべての市民が楽しく集い、共に学び支え合い、安全安心なまちづくりに資することのできる施設とする。

3. 併設館の基本理念

(1) すべての市民が生涯にわたり学ぶ権利と、知る権利を保障する生涯学習拠点施設

子どもから高齢者、障がい者、本市在住の外国人、すべての市民が人生のそれぞれの時期においても生涯学び続けることができるよう多様な学習機会を提供する。また、豊富な資料をもつ図書館機能により市民の知る欲求に応える施設とする

(2) すべての市民が楽しく集い、学び合い、生きがいを持ち地域づくりに役立つ施設

豊かで充実した人生を送るため生涯を通して学習活動を行う個人や団体が楽しく集い、交流できる、利便性のある施設とする。また、学習したことが地域に生かせる、地域づくりに役立つ機能を持つ施設とする。

(3) 社会教育施設、各団体と連携を図り、学習情報の発信、地域のリーダー育成など人とまちづくりを支援する

家庭、学校、地域、行政、他の社会教育施設や各団体と連携を図り、多様な学習情報を提供する。子育て世代への支援や青少年の体験学習、地域のリーダー育成、など地域を支える人づくりと安心・安全なまちづくりを支援する拠点施設とする。

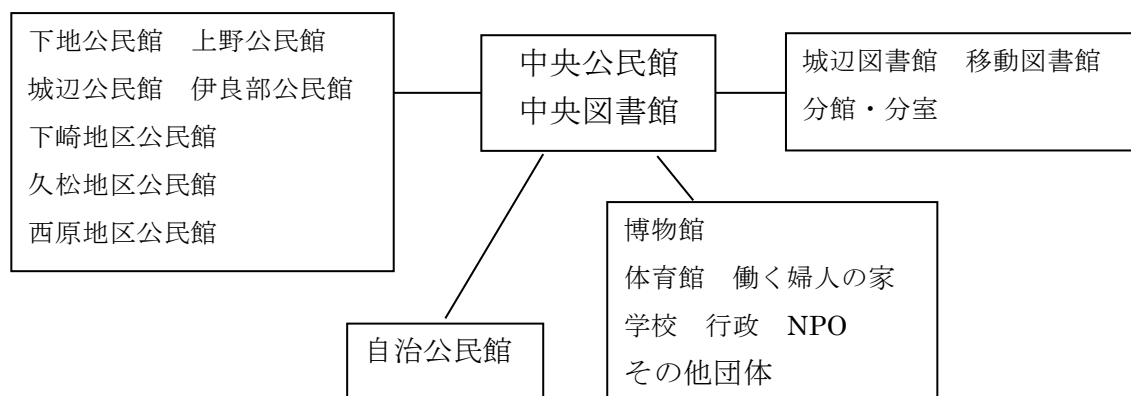
4. 新しい中央図書館・公民館の役割と他施設との連携・ネットワーク

図書館サービス網の整備は、中央図書館を中心に分館・分室及び移動図書館のサービスによって行われるのが基本である。新しい中央図書館は、市全域を対象とした直接利用の他、分館・分室と移動図書館の活動を支え、図書館サービスシステムを統括・支援する中枢機能を担う。

また、「宮古島市公民館設置及び管理に関する条例」第3条において、中央公民館は、「他の公民館を統括する」と規定されている。新しい中央公民館は各公民館を統括し、各講座や学級、イベント等の助言、指導、調整を行う。また、専門性の高い施設機能は中央公民館に整備し、各地区公民

館や他の社会教育施設や学校、家庭、地域、行政、他の団体との連携を図る。

旧町村時代に建設した公民館が老朽化し建て替える場合は、地域の人口動態、市の財政状況を見極めながら図書館分館、分室との複合施設を検討し、図書館・公民館の新たなネットワークを構築する。



5. 防災機能について

公民館は「宮古島市地域防災計画」において災害時の避難所とされている。併設館は避難者の安全を確保する耐震性構造の施設とする。また、災害時に水、非常食、生活必需品などを供給する備蓄倉庫や耐震性貯水槽を整備する。避難生活が健康で衛生的に過ごせる生活環境を提供できる設備を整備する。

6. 施設外観および周辺環境について

施設の目的・機能の効率的な運用性を十分考慮しながら、地域の良好な景観形成の視点からも併設館の外観および周辺環境の設計については、「宮古島市景観条例」や「景観計画」の理念に則り、島の歴史や風土を考慮した施設とする。

周辺環境については、「図書館建築計画・植栽」に示す読書環境および「宮古島市花と緑の島づくり計画書」の全体計画も考慮した環境とする。また、エコアイランド宣言都市の施設にふさわしい省エネに対応した設備とする。駐車場の確保や路線バスの停留所設置など利便性の向上を図る。

第5章 スペース構成

1. 図書館スペース

施設名	面積 (㎡)	用途・機能	主な設備・備品、構成
新聞・雑誌コーナー	95	新聞、雑誌の配架	新聞閲覧台(10台程度) 新聞架(現在20紙) 雑誌架(現在95タイトル程度、新館では200タイトルを予定) 閲覧席
一般開架スペース	780	一般図書配架 読書席	一般書架(222連程度) 文庫用、新書用所管 地図架 読書席70席 その他
YA(ヤングアダルト)スペース	90	主に中・高校生を対象とする コーナー	書架(14連程度) 読書席50席
調べ学習コーナー	50	調べ学習、調査・研究	読書席25席
子ども開架スペース	398	子ども用図書、絵本、紙芝居 等配架	子ども用低書架(69連程度) 絵本・紙芝居架(39連程度) 読書席50席 ベンチ ベビーベッド等
おはなしの部屋・道具室	120	おはなし会や子育て広場等 で使用(おはなしの部屋 80 ㎡、道具室 20㎡)	小テーブル 赤ちゃん用絵本架 遮光カーテン 紙芝居舞台、人形劇用けこみな どの道具

授乳室	10	授乳時やおむつ替え時に使用	流し、ベビーシート、ソファ等
AV(視聴覚)コーナー	70	CD、DVD等の配架や視聴。	CD・DVD架(10000枚) テレビ、DVDレコーダー等 視聴ブース
地域資料コーナー	600	郷土資料の配架と、調査研究の援助	書架 読書席
市史編纂室	60	市史編纂作業と調査研究の援助	事務用品 書架
蔵書検索・自動貸出返却機	10		パソコン及び自動貸出返却機
対面朗読・録音室	20	障がい者への対面朗読	テーブル、イス、自動音訳機など
ボランティア室	30	ボランティアサークルの作業、練習	テーブル、イス
インターネットコーナー	20	インターネット等の情報検索、及び電子図書閲覧。	パソコン テーブル いす
エコ学習コーナー	30	エコ関係資料の配架・展示	書架、パネル等
サービスカウンター	40		
返却ポスト	6		
コンピューター室	10	サーバー設置	
移動図書館関連スペース	120	事務作業 20㎡ 車庫 100㎡	
閉架書庫	587		
小計	3,146		

2. 公民館スペース

施設名	面積	用途・機能	主な設備・備品、構成
	(㎡)		
多目的ホール	500	講演会、コンサート、舞踊、 展示会、各種ダンス、軽運 動、各発表会(300人収容)	防音、音響設備、移動式観覧席 (200席)、移動式座席(100席)、 グランドピアノ、電動昇降スクリー ン、無線LAN設備、椅子、会議 用テーブル、照明器具、隣接倉 庫、反射板
舞台	240		
倉庫	30		
控室1	60	演者控室、楽器練習 (30 人収容)	遮音、スツール、洗面台、壁面 鏡、間仕切り、ロッカー 舞台モニター
控室2	60	演者控室、楽器練習 (30 人収容)	遮音、スツール、洗面台、壁面 鏡、間仕切り、ロッカー 舞台モニター
スタジオ1	150	リハーサル、楽器練習、ダン ス、合唱 (50人収容)	防音室、フローリング、壁面鏡、 グランドピアノ、ドラム、ロッカー、 舞台モニター
スタジオ2	110	楽器練習(20人収容)	防音室、ピアノ、ドラム、エレキ、 ベース、編集機器、メディア工房 室など
スタジオ3	28	1~5人楽器練習	防音、アップライトピアノ
研修室1	180	セミナー、サークル、会議(1 00人収容)	間仕切り、無線LAN、音響機器
研修室2	180	セミナー、サークル、会議(1 50人収容)	間仕切り、無線LAN、音響機器
研修室3	75	学級、講座、会議 (30人 収容)	テーブル、椅子、無線LAN、間仕 切り、プロジェクター

研修室4	75	学級、講座、会議（30人収容）	テーブル、椅子、無線LAN、間仕切り、プロジェクター
和室1	60	舞踊、生け花、三線など（30人収容）	襖
和室2(茶室)	60	舞踊、茶道、生け花、三線など(30人収容)	襖、調理室と連続、茶釜は電気式炉、水屋、床の間
創作(工作)室	100	工作、陶芸、絵画（30人収容）	工作テーブル、椅子、電動ろくろ
学習室	75	資格、受験等の学習の為に使用（50人収容）	テーブル、椅子、WIFI、間仕切り
調理室	100	調理実習(50人収容) 和室の隣	調理台(7台)、昇降式調理台1
小計	2,083		

3. 共有スペース

施設名	面積	用途・機能	主な設備・備品、構成
	(㎡)		
玄関(風除室)	20		
展示コーナー	250	小規模展示スペース	
喫茶コーナー	30		
小計	300		

4. トイレ

施設名	面積	用途・機能	主な設備・備品、構成
	(㎡)		
トイレ	190		
舞台裏トイレ	32	男(個2 小3) 女(個4) ベビーシート等	
多目的用トイレ	28	男女別、オストメイト、ベビー キープ等	
児童用トイレ	10		図書館おはなしの部屋に隣接
職員用トイレ	20	男(個1、小2)女(個3)	
計	280		

5. その他

施設名	面積	用途・機能	主な設備・備品、構成
	(㎡)		
青少年支援センター	120		事務室60㎡ 相談室15㎡ 勉 強室18㎡×2室(不登校児童、 過卒生)
備蓄倉庫	30	災害時緊急物資備蓄	棚、災害対策用食料、水、医薬 品、衛生材料、生活用品、
エレベーター	7		
事務室(図書館+公民館)	200	事務室 製本スペース	事務机、書棚
救護・休憩室	20		
更衣室・ロッカー	15		
シャワー室	5		移動図書館や館外活動後に使 用

その他スペース	734		
小 計	1,131		

合 計	6,940		
-----	-------	--	--

※面積、設備・備品等については設計者と協議してすすめる。

宮古島市未来創造センター（仮称）基本構想

平成25年9月

宮古島市役所総務部中央図書館等建設準備室

〒906-8501 沖縄県宮古島市平良字西里186

TEL (0980) 72-3751 (代表)